

話題の治療 形成外科	2
近森病院を退職するにあたって 和田廣政	3
ザ・RINSHO 株式会社エスールエル	6
第8回FIM講習会 in 土佐開催	7
数字でみる近森会グループ	10

www.chikamori.com ● 高知市大川筋一丁目1-16 tel. 088-822-5231
発行●2018年5月25日 発行者●近森正幸 / 事務局●寺田文彦

5月21日(月)生まれ変わりました! 「しごと・生活サポートセンター ウェーブ」

社会福祉法人ファミリーユ高知

しごと・生活サポートセンターウェーブ センター長 西岡 由江



● 5月12日の内覧会に約140名が参加しました

●休憩室●

作業につかれた際のリラクゼーションルーム。横になることもでき、落ち着くことのできる家具も設置しています。



●食堂●

一人でゆっくり、仲間とワイワイ、それぞれが選択できる空間です。ポンドアートコラボレーション作品も飾っています。



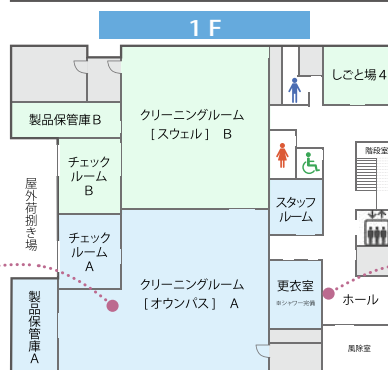
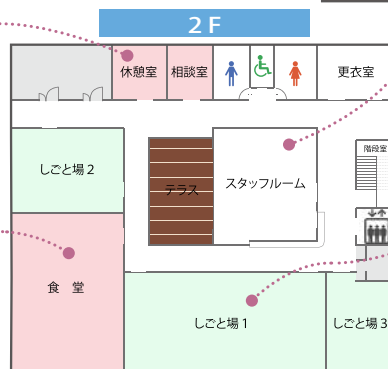
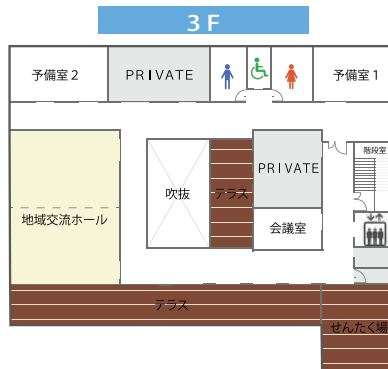
●クリーニングルーム●

荷捌き場→チェックルーム→洗濯・乾燥→製品保管庫といった一連の流れを大切に設計、トンネルフィニッシャーも導入し、効率を上げ、生産性が高まる予定です。



障がいをお持ちの方々が働く喜びを感じ、希望を叶えられる事業所づくりをコンセプトに、スタッフ一同で一から建築設計、物品検討に携わり、工夫を凝らした【しごと・生活サポートセンター】が完成しました。

新館建築決定から9カ月という短い



▲ 正面玄関

期間で自分たちの理想とするセンターを作り上げるには、様々な決断と労力を注ぐこととなりました。しかし、これを組織改革のチャンスと捉え、新たな

2頁に続く

●スタッフルーム●

フリーアドレス制で自由に移動できることから、セクションやチームのみならず、組織や立場の壁までも超えたコミュニケーションの活性化が図れ、働き方改革につながる仕掛けになっています。



●しごと場●

作業によって高さが調節できたり、一人での作業から大勢での作業が自由につくれる連結可能な机を設置。また、人と向かい合っただけの仕事が苦手な方には窓際のスペースを設ける等、自由度・自立度の高いしごと場空間を作りました。



●エントランス(ポンド・ウェーブホール)●

創作テーマ「つなぐ(接着する)」に基づき、「アート」「医療」「地域」「世界」をつなぐ(接着する)作家活動をされている富永ポンド×ウェーブのコラボ作品。富永ポンド代表作の「LINE」を波(ウェーブ)に見立てつつ、スタートから目標までを柔軟な視点を持ち、



「つながり」を大切にしながら支援するという想いと「多様性」を表現しています。

1頁から続く

に建築する・新たに企画すること（＝ビルド）と、業務の効率化の見直し・受注仕事の選択と集中（＝スクラップ）を行いました。この「スクラップ・アンド・ビルド」を繰り返すことで変化に対応できる組織力をつけることが出来たと考えます。

10年あまり、旧松田病院跡の1階から5階を自由にに使わせていただき、

●地域交流ホール● 3F

60人が入るスペースがあります。地域福祉の拠点施設としての使命を果たすため、今までお付き合いのなかった一般生活者のみなさまにも多目的に利用して頂けます。



さまざまな種類の委託作業を展開してきたことで、部屋の導線、空間の構造化、視覚支援などたくさんのノウハウを見つけることができました。その実績を踏まえ、単に建て替えるだけでなく、変化する利用者のニーズに対し就労支援事業所の在り方（根底）から見直しをする重要な時間となり納得のいく新館ができたと思っています。

にしおか よしえ

● 話題の治療 ●

形成外科 3



GCMN（巨大型先天性色素性母斑）の治療3

－ 高圧処理技術応用の試み －

近森病院形成外科部長 赤松 順

イラスト：近森病院麻酔科秘書 吉岡



GCMN の治療に関して、前回お話しした真皮層を残した母斑切除に自家培養表皮を移植する方法のほかに、自家培養表皮を用いた、もう一つのトライアルが試みられています。

母斑切除には、凍結外科、皮膚剥削術（キュレタージュ）、レーザー治療などの方法がありますが、外科的に切除を行うことで、切除組織中の母斑細胞が無くなりますので、クリアーカットな結果が得られます。

前回も少し触れましたが、自家培養表皮は、真皮が残存あるいは再構築されれば80%程度の生着が期待できますが、人工真皮で形成された真皮様構造では高い生着率が期待できません。

そこで、切除した母斑細胞を含む皮膚組織をリサイクル活用する方法が開発されつつあります。日本発の食品加工技術である高圧処理を応用し、

2000気圧の水圧（マリアナ海溝の水圧の約2倍）で真皮様構造を損傷することなく、母斑組織内部の母斑細胞を短時間に不活化し、切除時に再移植し生着後に、自家培養表皮を移植する方法です。

成功すればGCMN治療の根治性、整容性などに多大な飛躍が期待できる方法だと期待されます。

3回に渡ってGCMN治療についてお話させて頂きましたが、形成外科治療の基本原則である、根治性、整容性など質の高い治療には、概念・技術・材料と、医療者の熱意が求められていると思います。新しい治療がreliable methodと

▼人工真皮を高圧処理する際の水圧イメージ



して患者さんに役立つことを期待しています。

あかまつ じゅん

6月の歳時記 ガクアジサイ

近森病院 6階 C 病棟
看護師 林 加奈子



雨がとてもよく似合うアジサイ。日本が原産の「額アジサイ」は額縁のように周囲にだけ花が咲いており、よくみかける花が手まり状のものは「西洋アジサイ」だそう。様々な色があり

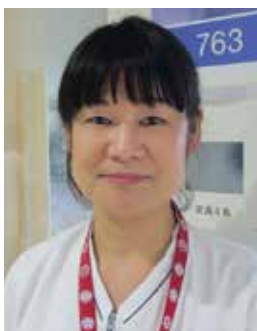
ますが、土壌が酸性だと青系に、アルカリ性だと赤系に変化するそうです。

どんよりとしたお天気の日でも、心を和ませてくれる美しい花です。

はやし かなこ



写真：編集室



近森病院7階A病棟看護師長
がん性疼痛看護認定看護師 上戸 理恵

痛みや辛さを和らげるお手伝いを

10年前、目の前で辛い思いを抱えている患者さんや家族のために自分ができることがない、何かできるようになりたいと思い、がん性疼痛看護認定看護師を目指しました。そして認定看護師として活動し始めてから8年目になります。これでいいのか、もっと他にできることはなかったのかなど未だに悩むこともあります。

そんななか、2年ほど前に認定看護師になる気づきを与えてくれた患者さんのご家族と偶然再会し、初心を思い出すことができ、また背中を押されたような気持ちになりました。

現在2人に1人が“がん”になり、がん患者さんの70%以上に何らかの

痛みがあると言われ、痛みは看取りの時期だけのものではなく抗がん剤や手術などの治療を行っている時期から何らかの痛みを抱えています。

当院は救急病院であり、健診などで“がん”が見つかり紹介受診する以外に、何らかの症状が出現し、受診したことにより予期せず“がん”と診断される患者さんもいらっしゃいます。痛みが強ければ、病気と向き合い、治療方法を決めたり、自分らしく生活を送ることができません。痛みを取るためには、お薬などを上手く使うこと、それ以外の痛みを和らげる方法を患者さんや家族、医療チーム

▼リンパマッサージ中も患者さんとコミュニケーションを



と一緒に考え取り組んでいくことが必要です。患者さんや家族を取り巻く人たちと協力しながら、少しでも痛みや辛さを和らげるお手伝いをしていきたいと考えていますので、いつでもお声がけください。

うえと りえ

近森病院を退職するにあたって



長い間お世話になりました

近森病院総合心療センター
事務長 和田 廣政

昭和58年に入社して35年お世話になりました。はじめ看護師として入社し平成元年から事務長を拝命して看護学校開設の2年間も兼任でずっと精神科で勤務させていただきました。

入社時は8割以上統合失調症の患者さんで長期入院も多く、運動会やXマス会と行事があり今では考えられないほど時間もゆったり流れ、宿泊キャンプや炎天下のソフトボール練習など楽しい思い出もたくさんありました。

昭和60年頃から長期入院患者の社会復帰が進められる中、当院でも訪問看護ステーションラポールちかもりやメンタルクリニックちかもり・援護寮まち・地域生活支援センターこうちと地域生活を支援する施設群を次々と開設して行く中で、多くの精神障害者が地域生活に移行していくことに関わることができ感謝しています。

また、建物も7病棟（現オールソン病院西側）から旧第二分院、そして総合心療センターと2回も新築引っ越しを経験しました。総合心療センター棟ではスタッフの意見を広く取り入れ、統合失調症患者の減少とストレス関連疾患の増加に対応できるという基本方針に

沿った設計をすることができ事務長として貴重な経験をさせていただきました。

退職後は以前ひろままでご紹介させていただいた米・野菜づくりの田舎暮らしをする予定です。

総合心療センターのスタッフをはじめ、近森会の皆さん、長い間お世話になりました。ありがとうございました。

わだ ひろまさ



リレー エッセイ

龍馬脱藩の道を歩いて



明治維新 150 年を迎え、幕末維新博で高知県内が盛り上がる中、私の妹も幕末の偉人たちに関心を持ち、思いを馳せているようです。最近はそのような妹に誘われるままに県内外各所の文化史跡や名所等を巡ることが増え、浅学ながら、偉人達の勇気と情熱あふれる生きざまに感銘を覚えています。

去る 3 月 25 日には、「第 28 回龍馬と歩こう脱藩の道」というイベントに参加してきました。佐川から土佐国内最大の難所と言われた朽木峠を越え津野町へ至る 12km の道のりを、残存する脱藩の道や名所を巡りながらウォーキングするというものです。



臨床栄養部管理栄養士
池内 美保子

整備されていない山道は足元が不安定で度々転びそうになり、運動不足も祟って過酷な 12km でしたが、町内の方々の温かい声援とおもてなしのおかげでなんとか歩き切ることができました。また、昼食には当時のグルメである羽釜飯とシャモレンゲ汁等が振舞われ、青空の下で食べるそれは格別の美味しさでした。

龍馬は文久 2 年 3 月 24 日に高知を出奔し、3 月 26 日に葦ヶ峠を越えて伊予の国へ脱藩し、長州に至ったとされています。今回はそのほんの一部を歩いたに過ぎませんが、先人の大変な苦勞と高知県の雄大な自然を全身で感じる事が出来ました。また、ちょうど坂本龍馬が脱藩した年齢を迎えた今、自分の人生を見直す良い機会となりました。

いけうち みほこ

バレーボール大会

5 月 19 日(土)はお天気にも恵まれ、参加者が少ないながらも盛り上がりました。



▼優勝はオペ室チーム！初優勝おめでとう！！



▼35名で総当たり戦を、エキシビジョンでソフトバレーもしました



■ 私の趣味 ■



13 年になります。

カール・ブッセは「山のあなたの空遠く」には幸いが住むと詠み、松尾芭蕉は「片雲の風にさそはれて、漂泊の思ひやまず」と著していますが、飛行機に 10 数時間乗るだけで地球の裏側までいける時代になっ

山のあなたの空遠く

診療支援部企画課 藤原 敏洋



ら、依然として我々には「ここではないどこか」に対する希求が内在するようです。

山の向こうには自動車のほうが短い時間で行くことができますが、自動車では山の向こうに辿り着くことが目的になるのではないのでしょうか。しかし自転車での山を向こうを目指すとき、その意味合いは少し異なります。自転車の場合は、目的地への道筋を自らの脚で踏破することも目的となるのです。そしてその途上の風景は、単に自動車を通り過ぎたときよりはるかに鮮明なものとなって、

自分の中に残ります。折々の風景を自分の中に取り込みながら進む自転車は、日常生活の中において漂泊をなし得る手段の一つなのではないでしょうか。

たとえ山の向こうに幸いを見つけられずに引き返したとしても、いずれ、なお遠くにも辿り着けるだろうと思える自転車という趣味は、それ自体がすでに幸いなものではないかと私には思えます。

ふじわら としひろ

ハッスル研修医

辛い時であっても



初期研修医 2年次 中谷 優

今年から近森病院で研修をさせていただくこととなりました。現在はERで研修をしております。大学ではあまり経験しなかった救急症例をみるにあたって非常に勉強になり刺激がある一方で、新しい環境で働くということは正直なところ不安でいっぱいです。

慣れない環境で不安になりそうな時に思い出すようにしている私の好きな言葉があります。

何事にも定められた時がある。天の下のすべてのことには時がある。誕生するのに時があり、死ぬのに時がある。(中略)～泣くに時があり、笑うに時があり、泣き叫ぶのに時があり、踊るのに時がある。(中略)～黙るに時があり、語るに時があり、愛するに時があり、憎むに時がある。

病院で働くということは、ある人の人生の生まれる時、亡くなる時、いろんな時に寄り添う機会があります。私もこれから近森で働いていく中で、嬉しいことや楽しいことそれだけでなく悔しかったり、辛いことも経験するでしょう。たとえ自分が辛い時であっても、医者という仕事は、患者さんの人生に寄り添い、手助けをできるという嬉しい機会を与えてくれる仕事だと思っています。近森でたくさんの時を経験していこうと思います。

なかたに ゆう

献血キャンペーン

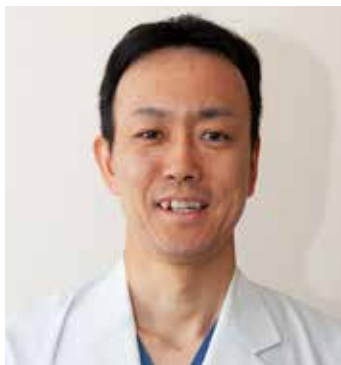
ありがとうございました。

4月20日12名、4月25日に献血キャンペーンを開催しました。両日あわせて37名の方にご協力いただきました。ありがとうございました。

乞！熱烈応援

経験を生かす 15年

日々努力

臨床工学部急性期 CE チーム
技士長 長尾 進一郎

臨床工学技士になり20年、近森病院に就職して15年になります。

血液浄化業務からスタートし、急性期CEに配属されてからは人工心肺や補助循環、また人工呼吸器分野など幅広い経験を積ませて頂きました。

蓄積した経験を生かし、これからの15年は、後輩指導に取り組み、患者さん、またチーム医療に貢献できるように努めて参ります。

ながお しんいちろう

やるかやらないか

近森病院附属看護学校事務局
主任 谷 仁美

恵まれた環境の中、医療安全と診療録の業務を10年間担当させていただきました。いつも近くで見守って下さった皆様には感謝の気持ちでいっぱいです。のびのびと業務をさせていただき、本当に幸せでした。学校への異動と主任の話には大いに戸惑いましたが、できるかできないかではなく、やるかやらないかの気持ちを大切に一杯努力していきたいです。

たに ひとみ

診療支援部診療情報管理室
室長 中屋 智

診療情報管理室に配属と同時に室長代理を拝命してから7年になります。昨今の医療制度において成果主義が導入されていく中で、急性期の病院においても「良質な医療を提供する」ことから「良質な医療を適切にかつ効率的に提供する」病院経営が求められるようになりました。今後も、管理部の一員として適切な病院経営に貢献できるように努めてまいります。

なかや とも

初心忘るべからず

社会福祉法人ファミーユ高知
法人本部 主任 竹内 淳哉

法人本部の役割は、社会福祉法人の経営および運営上起こりうる課題やリスクを内外から情報集約・分析・対策を立案し、理事会にて報告・判断を仰ぎ、意思決定に基づき正常な事業運営の管理を行うこととあります。

未熟な私は責務に対して東奔西走する毎日ですが、今後も皆様のご指導に感謝を忘れず誠心誠意業務に励みます。

たけうち じゅんや

お弁当拝見 62 彩どり弁当



診療支援部医事課
中野 千奈都



私のお弁当は、毎朝母が作っています。毎日作ってくれている中で、一日30品目食べるように、色々な種類のおかずを入れ、彩どり良く作っています。

ご飯の上にはいつも刻んだたくわんや、三色弁当、のり弁当風など、おかずだけでなく、ご飯の盛りつけにもこだわっています。

毎日、私が起きる前からお弁当を作っている母に、感謝の気持ちでいっぱいです。そんなお弁当を毎日食べながら、私もいつか母の様になりたいと思っています。

なかの ちなつ



● 近森看護学校通信 28 ●

新入生歓迎会

看護学校は新たに迎えた1年生45人の新入生歓迎会を、4月19日鏡川の河川敷で行いました。全学年が交わり行事をするのは初めてで、最初1年生は少し緊張しているように見えました。そこで2、3年生から積極的に声をかけ場を和ませることで、お肉が焼ける頃には1年生が自ら話かける姿が見られました。

当日は快晴で暑い中皆でバーベキューを作りましたが、多くの学生から「楽しかった」と言ってもらえ、企画や準備は大変でしたが実施してよかったと思います。

今後の行事予定として7月にスポーツ大会、9月に学園祭があります。その時も、全学年で楽しく、地域の方と交流も深めながら行っていききたいと思います。 2年生 山岡 凌

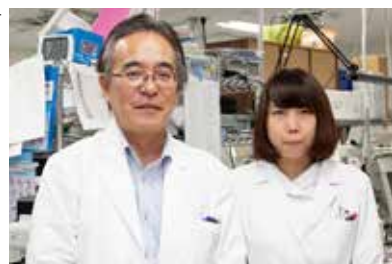


ザ・RINSHO 株式会社エスアールエル

▶責任者大宮さんと執筆者右

患者さんのために

株式会社エスアールエル
臨床検査技師 吉田唯さん



(株)エスアールエルは、主に病院やクリニックなど医療機関から患者さんの検体をお預かりし、高度な技術と品質保証体制の下で分析を行い検査結果を検体をデータチェック中



ご報告しております。近森病院では2003年より患者さんから採取した血液や尿などを調べる「検体検査」を院内でランチ検査室として担当して

おり現在は14名のスタッフが24時間体制で約80項目以上の検査を行っています。

●血液検査：採取した血液を用いて血算・血液像・凝固・線溶などを測定し貧血の程度、白血球の多さから

炎症の程度を把握します。

●生化学検査：血液や尿などを試料として蛋白・電解質・脂質・糖などの生化学成分を全自動生化学分析装置を用いて測定し臓器の異常を把握します。

●免疫血清検査：感染症・腫瘍マーカーなどを測定し体内の免疫機能の状態を調べています。

●一般検査：尿・便・髄液・胸水・腹水などを測定する事で腎・尿路系の疾患のみならず多くの臓器の機能異常や病態を知る事ができます。

これからも専門知識の向上につとめ迅速に検査結果をご報告していきます。 よしだ ゆい

基礎編 103名、応用編も30名が取り組む

近森リハビリテーション病院

院長 和田 恵美子

FIM(Functional Independence Measure)という日常生活動作評価法の講習会を第8回基礎編、第2回応用編を当院と川崎医療福祉大学共催で開催しました。

運動13項目、認知5項目を各1～

7点の点数をつけていくやりかたですが、基礎編を103名受講し、応用編も30名が文章題でグループワークに取り組みました。

四国で唯一開催されるFIM講習会も今年で7年目になり、中四国からの



▲講師の椿原彰夫先生を囲み運営スタッフ。前列右から3人目筆者

▼総論を担当した山崎勇輝医師



継続的な参加も増えてきています。特に応用編は募集から数日で満員となる盛況で、事前勉強をしっかりとしてから参加されていました。

来年も5月に開催しますのでぜひご参加ください！

わだ えみこ

なんでもフリーコーナー●あの人は今!?

アロマと水彩に魅せられる日々

小谷隆子さん

近森歴

1988年 2月 総務課院長秘書として就職
1997年 10月 総務課主任院長秘書
2001年 2月 広報業務スタート
2009年 3月 惜しまれながら退職

▼バースのセラピストパワーで元気な私です



退職してはや9年余り。色彩の仕事をぼちぼちしていましたが、香りの知識も必要となり、門をたたいたのが高知市内のアロマテラピーサロン&スクール「バース」でした。そこの若きオーナーと出会い、資格を取得した後、講師にという思いがけないお話をいただきました。そのご縁で、居座ったまま今に至っています。おかげで天然の香りに癒されアロマ大好き人間に変身してしまいました。

講師というのはさまざまな職種の手伝いさんたちに刺激をいただき、教えることより教わることの方が多く仕事なんだと、幸せを感じる日々です。5月からバースが職業訓練校の認定を



▲自己満足の世界に浸ってます

受け、セラピストに交じって私も張り切っています。最年長の私でも務まるのは、在職中の秘書業務と広報の仕事を経験できたからだと感謝していますし、培ったたくましい近森魂が今も私の中にみなぎっているぞ〜って実感しています。

最近では香美市社会福祉協議会で生活支援員のボランティアもしています。例えば、退院後の一人暮らし高齢者の生活を、社協全体が連携し丁寧にサポートされている様子を目の当たりにすると、身が引き締まる思いです。

最後に、念願の水彩画を近くの美術館で習い始めて1年ほど。思い切りと時間が勝負の水彩に、失敗の連続ながら、夢中になっています。いつの日か小さな個展を開けるといいなあ。

こたに たかこ

よさこいチーム 「ちかもり」

祝!
9回連続
出場



「第65回よさこい祭」の夏がくる。感謝の気持ちを忘れずに元気に周りの人に幸せをもたらすよさこい踊りをつくりまします。

訂正とお詫び

本誌382号(5月)の表紙目次において、人物ルポ者名の表記に誤りがありました。正しくは「細田幸司」医師です。訂正してお詫びいたします。

ニューフェイス

①所属②出身地③最終出身校
④自己アピールなど

初期臨床研修を修了しました

さまざまな体験を

初期研修医二年次 西田 一平
(5月1日より、近森病院整形外科)



4月30日を以って初期研修を修了し、晴れて専攻医になりました。期間間際までご指導頂いた上級医の先生方や事務の方々には最後まで多大なご迷惑をおかけしました。少し回り道をしましたが、別な角度から様々な体験をさせて頂き、理想の医師像がぼんやりと見え始めたように感じています。5月からは念願だった整形外科の一員として勤務しています。多くの方々に頼って頂けるような医師を目指し励みますので、引き続きどうぞ宜しくお願い致します。

にしだ いっぺい

おめでとう

人の動き 敬称略

編集室通信

今更ではあるが今後の自分の将来像や仕事のスタイルを今一度考え、キャリアコンピタシーについてみつめ直し、通信ではあるが4年生大学に挑戦しています。まだ仕事と学業の両立に慣れていないこともあり、焦りや不安もあります。知らないことを学ぶことで今の自分よりも幅の大きな人間になればと考えています。体の幅はすぐに大きくなるのですが……。

奥

Dr コトーと、「ビビッと！」で

間口を広く、昼夜を問わず

沖縄の離島が舞台の『Dr コトー診療所』の青年医師は、ほのぼのとした人間関係や、ときに厳しい医療環境のもと、徐々に成長し、島民の信頼を得て、人気を博した人情ドラマだった。

自治医科大学卒業後、地元宮崎に戻り、まさにこのDr コトーの如く夜中に漁師の舟で検死に向かった漁師町での経験などは、井ノ口科長の今日に少なからず影響を及ぼしているようだ。

間口を広く昼夜を問わず、「何でも診て、地元で溶け込めるよう」頑張った。周りのスタッフ評「愛されキャラ、癒しキャラ、気さく、優しい」の基礎が築かれたのではないだろうか。

自由に凝り固まっていない魅力

スタートは内科が主だったが、研修医時代から、やりたいのは整形外科だった。よくも悪くも「結果がはっきり出る科」であることが、科長の性分に合ったようで、土日には「学会巡りに精出していた」という。

宮崎県から風土も県民性も似通っている高知県に一家で移住したのは、これもちょっとドラマっぽい話がある。

衣笠清人整形外科統括部長の学会発表後の質疑応答の場面。骨折の術式について、「患者さんが良くなりさえすれば、どの術式を取るかはどちらでもいいんじゃない!？」。

この衣笠統括部長の「自由に、凝り固まっていない感じにビビッときた!」のだった。それでも、「ビビッときた自分の直感が間違いではないことを確認する!」ために、また宮崎時代に職場結婚した妻にも納得してもらうために、宿泊付きの近森病院見学も何度か行ない、就職したのが6年半前だった。

さらに、整形外科へ進むのには運命の赤い糸があったのかも知れない。

歩き始めた頃、体格は良いのに歩き



▲月曜の外来を除き、ほとんどの時間は手術に携わっている先生のこれが日常着

方がなんだか不自然だった。これを近所の整形外科の二代目ドクターにいち早く気づいてもらえた。大腿骨を守るギプスを着け、小学校入学時には完治していたそうだが、先生への感謝はいまも薄れていない。整形外科で身を立てる力の源泉になったのではないだろうか。

日常には常に笑いを散りばめたい

手術には緻密に一所懸命取り組むという心構えプラス、日常には「常に笑いを散りばめたい」という密かな願いも持っている。

お笑い系が大好きで、学生時代にはお笑い専門の劇場「ルミネ the よしもと」の公演をハシゴしたこともあるし、いまでも就寝前には漫才をイヤフォンで聴くほどのファンである。

回診では、「患者さんの笑いを取るまで帰らんぞ! (笑)」と誓うほどに「笑い」を大事に思っている。そういえば、「日本笑い学会」は設立から25年を迎え、笑いの医学的考察は着々と積み上げられてもいる。

チームの大人数を尊ぶラグーマン

ガッシリと骨太の、いかにもラグーマンっぽい体型だが、ラグビーを始めたのは医学部に進んでからだった。それまでの部活は軟式テニスで個人競技だったため、チーム競技を経験したいと、いちばんチームの人数が多いラグビーを選んだ。

年間を通じ、近森病院全科の手術総



「家族でのお出かけ、だ〜好き!」▲



ポーズをとってくれた。

数の半数以上を行なうマンモス医療チームにとっては「チーム」の持つ意味合いも殊更に重そうだが、スポーツでも大人数を好んだ井ノ口科長には、これもぴったりの規模なのだろう。

ストレスが毛髪を奪うともいうのか、薄毛を危惧し始めた時期もあったそうだが、近森病院に就職して以来、科長曰く、「よっぽど、近森の水が合っていると思う」らしい。

「髪もフサフサ、元通りです」と、わざわざ手術帽を脱ぎ、患者さんの笑いを取るには、例えばこんな感じとばかりに、自慢の

ヴィンテージの楽しみ

家では、小学4年生の^{わたる}航くんを頭に三人のパパ。子どもたちの誕生日には、子ども達が生まれた年に造られたヴィンテージ物を、お酒の呑めない料理好きの妻や、子ども達を相手に呑むのも、大きな楽しみになっているようだ。

2018年4月の診療数 システム管理室

近森会グループ	
外来患者数	17,069人
新入院患者数	916人
退院患者数	949人
近森病院(急性期)	
平均在院日数	14.70日
地域医療支援病院紹介率	78.58%
地域医療支援病院逆紹介率	156.80%
救急車搬入件数	497件
うち入院件数	263件
手術件数	428件
うち手術室実施	293件
うち全身麻酔件数	165件

● 2018年4月 県外出張件数 ●
件数 39件 延べ人数 71人

♡ 母の日特別企画！ ♡



おかん、
これからもよろしく！



近森病院救命救急病棟
看護師 石嶺 翼



今年の4月に近森病院に就職して1カ月が経ちました。まだまだ覚えることだらけで勉強づくしの毎日を送っています。

看護師として働き始めたことで気づいたことがあります。それは母の偉大さです。私の母は34年前から近森病院で勤務しており、通称「近森のシーラカンス(生きた化石)」と呼ばれています。看護師1年目の自

分にとって30年も看護師を続けるということは想像もできず、母からは継続することの重要性を学ばせてもらっています。

就職してからは仕事の話や相談などをすることが多く、そのたびにアドバイスやポジティブな言葉をかけてくれます。また、さまざまな知識や技術を教えてくれる先輩が身近にいるということは、自分にとってほんとうに大きな強みです。

これからは少しずつですが両親に恩返しをしていけたらと考えています。親孝行第1弾として、初任給で両親にペアウォッチを送りました。

最後に、「おかん！母の日おめでとう」これからもよろしく。

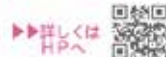
いしみね つばさ



採用試験

筆記7月28日(土)

面接7月29日(日)



参加無料

教えて!ドクター
おしっこのこと

泌尿器科や癌科がんの最新治療について多くの方に知ってもらうための講座です

6月10日(日) 14:00~16:00 市民公開講座開催

お申込みは不要です。当日そのままお越しください。

会場：近森病院 第3研修室

お問い合わせ：028-622-4231

近森会グループ
職員数
1,987 人
(2018年4月1日現在)
委託を含む実質的な職員規模は2,341人となり、多くのスタッフでチーム医療を展開し、日々患者さんをサポートしています。

近森病院
救急車搬入件数
6,664 件
院内救急車出動件数 49件
ドクターカー 51件
ドクターヘリ受入件数 113件

近森病院
手術件数
5,398 件
急性期医療に取り組む近森病院では、一刻を争う患者さんが多く、日曜祝日関係なく、1日当たり平均15件の手術数です。

近森病院
延べ外来患者数
156,501 人
地域医療支援病院として地域に密着した医療を展開しています。外来患者さんは1日当たり平均429人(土日祝日を含む)です。

近森病院
延べ入院患者数
149,219 人
急性期病院として一般病床452床を確保。常時入院中患者さんは1日当たり平均409人。

数字でみる近森会グループ

2017年度の実績

2017年4月～2018年3月

近森病院の実績は精神科を除く

近森病院
退院患者数
10,252 人
近森病院に入院されている患者さんが1年間に退院された数字です。平均在院日数は14.55日です。

近森会グループ
延べ見学者数
129 人
見学受け入れ件数は37件。(実習や部門での個別受入は除いています)

精神科グループ
総合心療センター
精神科1日平均外来患者数
135 人
デイケアパティオ復職率 95.3% (41名)
デイケアメンタル就労率23.0%(12名)
ラポールちかもり月平均304名訪問

近森リハビリテーション病院
在宅復帰率
78.1%
重症患者割合：日常生活機能評価10点以上 32.4%/重症患者改善率 51.1%(日常生活機能評価点数4点以上改善)

近森オルソリハビリテーション病院
病床稼働率
98.7%
在宅復帰率 地域包括ケア病床 80.4%
回復期病床 84.7%